

世界情報サービス産業機構 (WITSA) 会議 報告

JISA 国際部

1. 日程：2013年11月10-11日
2. 場所：ブラジル・サンパウロ
3. 参加者：JISA 五十嵐副会長、事務局を含む、メンバー国 15 カ国より約 25 名（うち電話による参加者が約 5 名）

4. 会議概要

(1) WITSA 委員会 (11月10日)

WITSA 財務委員会、メンバーシップ委員会、ポリシーアクション委員会がそれぞれ行われた。

財務委員会では、2013 年前半の収支状況について報告があり、2016 年に世界会議をホストするブラジルがフランチャイズフィーを全額前払いすることとなり、その運用方法についても検討が行われた。メンバーシップ委員会では、各メンバー協会が WITSA に望む活動として、メンバー企業がグローバルビジネスをする上での障害を取り除くため、パブリックポリシーに関する活動が最も重要、という意見が多く、今後さらに注力していくこととなった。

ポリシーアクション委員会では、現在重要なトピックとして、プライバシー保護、セキュリティ、インターネットガバナンスなどがあげられ、これらについて今後も意見・情報交換を行うほか、バミューダ (2009 年)、アムステルダム (2010 年)、グアダラハラ (2011 年)、モントリオール (2012 年) に続き、サンパウロ宣言として WITSA のパブリックポリシーに関する主要方針を発表することで合意された。

(2) WITSA 役員会 (11月11日)

前日に行われた各委員会の報告の他、エルサルバドル CASATIC とパナマ CAPATEC が新たに入会した。

また、2012 年モントリオール世界会議のフランチャイズフィーの未済の 40 万ドル (約 4000 万円) については、30 万ドル (約 3000 万円) を 3 年以内に支払ってほしいと WITSA より ITAC へ要望していた。しかし、ITAC は、WITSA にも大きな収入となる可能性のあるプロジェクトを行い、またカナダ企業 1 社が 4 年で 6 万ドル支払って WITSA Advisory Council メンバーになるという条件で、3 年という支払期限をなくすことを要請しており、了承された。

会費を払っていない年会費 250-500 ドルのメンバーについては、2 年間は投票権のないオブザーバーとし、その間に WITSA メンバーへの関心を示さなければ除名することとなった。

今後の会議は、2014 年 2 月に電話による役員会、3 月中旬にポルトガルで春期役員会、9 月末にメキシコでの世界会議にあわせて総会を予定。また、2015 年の GPATS はカタールで行うことを検討中で、12 月末までには結果がわかる予定。

WITSA GPATS 2013 開催概要

2013年11月12-13日にブラジル・サンパウロにおいて、WITSA 国際公共政策・取引会議（GPATS）が開催された。参加者は約100名。

第1日目の開会式ではWITSA 会長およびホスト協会ブラジル ASSESPRO 会長の挨拶が行われた。その後、世界経済フォーラム（WEF）ICT ディレクターのアラン・マーカス氏より「Why ICT matters? (なぜ ICT は重要なのか?)」というタイトルで基調講演が行われた。

次に「デジタル時代を確かなものにするポリシーフレームワーク」をテーマとしたパネルディスカッションが行われ、マケドニア情報省イバノフスキ大臣、韓国 NIA（情報社会機関）ユン氏、アフガニスタン情報管理サービス機関（AIM）アジジ博士、インド NASSCOM プレジデントのミタル氏が登壇し、各国におけるポリシーフレームワークについて紹介し、その後ディスカッションを行った。

午後には、インターネットガバナンスについて、インターネット社会機関（ISOC）ウェントワース氏、米ジョージメイソン大学法学部ドウラド教授、ブラジルインターネット運営委員会ディレクター ファウラベール氏、アラブ ICT 機構（IJMA3）事務局長ザッカ氏（レバノン）、インド NASSCOM プレジデント ミタル氏によるパネルディスカッションが行われ、続いて、グローバルサイバーセキュリティ・サイバー免疫システムについてのパネルディスカッションには、JISA パブリックポリシー部会 横澤 誠 部会長、WEF アラン・マーカス氏、ブラジル FIPA 大学フォンテス教授、WITSA シニアポリシーアドバイザー コンウェイ氏が参加し、それぞれの発表の後、議論が行われた。横澤部会長は、これまでのサイバーセキュリティは攻撃の前に防御する対策を講じ、あらかじめ設定された環境におけるルールとパターンに基づいてフィルタリングされるが、サイバー免疫システムでは攻撃を受けた後でも回復可能で、未知の攻撃に対しても経験則と知識に基づいてフィルタリングされるため、最近増えつつある標的型攻撃などに対抗することが可能で、今後重要となるので、グローバルに協力するべきであると述べた。また、セキュリティ保護は多くの場合プライバシー保護にもなるが、セキュリティ保護レベルを上げるのにプライバシー保護を多少犠牲にしなければならない場合もあるため、調和のとれたバランスが重要であると述べた。

第2日目には、ICT 製品・サービスの取引自由化、EU-ブラジル情報社会パートナーシップ、グローバル IT 産業の調和、若者による革新的技術の応用について、それぞれパネルディスカッションが行われた。最後に、まとめが行われ、2日間の議論の締めくくりとして、「デジタル時代を確かなものとするための重要なパブリックポリシー：サンパウロ宣言」を採択し、幕を閉じた。

以上（国際部）